

1-5 国内外の姉妹都市等

●国 内

- ・群馬県桐生市（国内親善都市） 昭和 40 年 3 月 27 日提携
- ・山形県東村山郡山辺町（国内友好都市） 平成 16 年 5 月 7 日提携

●国 外

- ・アメリカ合衆国アラバマ州バーミングハム市（国際親善姉妹都市） 1982 年 4 月 23 日提携
- ・ニュージーランド国タウランガ市（国際親善姉妹都市） 1988 年 4 月 18 日提携

1-6 都市宣言

交通安全都市宣言

・ ・ ・ ・ ・

近時、経済の進展にともなう都市交通のふくそうは、いよいよ激甚となり、これによる交通事故の続出は、大きく社会問題化している。

わが日立市の交通事情もきわめて深刻でありとくに市街を縦断する常磐線ならびに国道六号線の車両激増は、市内の交通の混雑に一層の拍車をかけている。このため、ひんぱつする交通事故の件数は、県下最高を示し、人命に対する脅威は、ますますつのるばかりである。

かかる交通禍の脅威をのぞき、市民生活の安全を確保するため、交通環境の改善を推し進めるとともに、市民一丸となって、安全交通の自覚に徹することの急務を痛感する。

よって、全市民とともに安全なる都市の理想を達成すべく、ここに日立市を「交通安全都市」とすることを宣言する。

（昭和 37 年 3 月 26 日）

核兵器廃絶・平和都市宣言

・ ・ ・ ・ ・

世界の平和と安全は、人類共通の願いである。

いま、国際的な核軍拡競争は、核戦争の危機を増大し、人類生存の恐怖となっている。

私たちは、再び「広島」「長崎」のあの惨禍を繰り返さないためにも、すべての国に対し、核兵器の廃絶と軍縮を求め、いかなる国の核兵器も許してはならない。

一瞬にして尊い命を奪い、財産を灰にしてしまったあの悲惨な戦争をいかなる理由があろうとも繰り返してはならない。

日立市は、日本国憲法の恒久平和の理念に基づき、核兵器の廃絶と人類永遠の平和を希求し、ここに「核兵器廃絶・平和都市」となることを厳粛に宣言する。

（昭和 60 年 12 月 24 日）

日立市環境都市宣言

～うるおいが活力を生むまち～

・ ・ ・ ・ ・

日立市は、朝日立ち昇る太平洋とみどりの阿武隈山地に囲まれた、四季の彩り美しい近代産業のまちです。

かつて、鉱山の煙害や河川の汚濁など深刻な公害問題に直面した時代がありましたが、大煙突建設、大島桜の植栽、下水道整備に見られるように市民、企業、行政が協力し、問題を解決してきた誇らしい歴史を持っています。

しかし近年、私たちは、ごみ問題、生態系破壊、地球温暖化、オゾン層破壊など、新しく困難な問題を抱えることになってしまいました。

これら環境問題の最大の被害者は、これから後の世代です。将来の市民に対し、環境と活力の調和した持続可能な社会を創ることが今に生きる私たちの使命です。

私たちは、今こそ先人の偉業に学び、協力して問題に取り組み、「いのち」の共生するこの環境を未来に引き継ぐことを決意して、ここに「環境都市・日立」を宣言します。

- 1 私たちは、山・川・海など恵み多い自然と共に生きられるよう、この自然環境をまもり、育てていきます。
- 1 私たちは、地球環境にやさしい循環型社会を創るため、一人ひとりが、省資源、省エネルギー、リサイクルに心がけた生活をおくります。
- 1 私たちは、環境の歴史的シンボルである「さくら」を愛し、美しく快適なまちを創ります。
- 1 私たちは、ものづくりの精神を活かし、環境にやさしい技術の開発や活用に努めます。
- 1 私たちは、一人ひとりが、学び、考え、行動し、市民・企業・行政のパートナーシップでより良い環境を創っていきます。

(平成 17 年 3 月 25 日)



ゼロカーボンシティひたち

～2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを目指して～

近年、地球温暖化の進行による影響と考えられる気候変動や自然災害など、様々な問題が顕在化しています。

日本で唯一、行政が運営する気象予報機関である、日立市天気相談所の観測データには、市内においても「桜の開花時期が早まっている」ことや「真夏日の増加」など、私たちの生活に直接的に影響を及ぼすような変化が表れています。地球温暖化がこのまま進行すると、さらなる自然災害の発生、深刻な食糧不足や生物多様性の損失など、私たちの子孫が損害を被る状況になりかねません。

国は、国内外に向けて「2050年カーボンニュートラル」を宣言しており、温室効果ガスの排出量を削減していくことは世界的な目標となっています。この喫緊の課題に対し、私たちは国際社会の一員として、一人ひとりが当事者としての危機感を持ち、今すぐ温室効果ガスの排出量削減に向け行動しなければなりません。

日立市はかつて、鉱山の煙害や河川の汚濁など、深刻な公害問題に直面した時代がありましたが、市民、企業、行政が協力し、問題を解決してきた誇らしい歴史を持っています。また、2005年には、この先人の偉業に学び、協力して環境問題に取り組み、「いのち」の共生するこの環境を未来に引き継ぐことの決意表明として、「環境都市・日立」を宣言し、今日まで行動してきました。

今こそ、この環境都市宣言に新たな命を吹き込むために、2050年までに「温室効果ガス排出量実質ゼロ」に挑戦することをここに表明し、市民、企業の皆様とともに総力を挙げて「ゼロカーボンシティ」の実現を目指してまいります。

令和4年3月2日

日立市長

小川 春樹

